

あたたかい子
かしこい子
たくましい子

学校だより

つよし

—第7号—

令和4年5月17日
平戸市立津吉小学校
文責 校長 田川定司

運動会、応援ありがとうございました

15日(日)の運動会には、保護者の皆様をはじめ多数御来場いただき、心から感謝申し上げます。コロナ渦の中で制限の多い運動会開催となりましたが、子供たちは、精一杯、演技や競技、係活動に頑張りました。お子様の確実な成長を感じられた一日ではなかったでしょうか。たくさんの声援が、子どもたちの頑張りを後押ししてくれました。本当にありがとうございました。



三つ葉のクローバーの花言葉

歓迎遠足で行った前津吉のグラウンドには、シロツメクサが一面に広がっていました。小学生が遠足に来た時に喜ぶようと、地域の方が、わざと刈らずに残していただいたのだと後から聞きました。地域の皆様の子供たちを想う愛情の深さを改めて感じ、感謝の気持ちでいっぱいです。

別名「クローバー」と呼ばれるシロツメクサは、江戸時代、オランダからガラス製品が贈られてきた際、製品に傷がつかないように詰め物として入れられていました。このことから「詰め草」と呼ばれるようになります。そして、詰め草が白い花を咲かせるということより、「シロツメクサ」の呼び名になったと言われています。小さい時に、四つ葉のクローバーを探して押し花にしたり、茎の長いクローバーの花を集めて花冠を作ったりと、そんな思い出のある方は少なくないでしょう。四つ葉のクローバーは、出現率が10万分の1と非常に低いことや、4枚の葉脈が十字架に見えることから、花言葉は『幸運』です。それでは、三つ葉のクローバーの花言葉は何でしょうか？ 実は三つ葉のクローバーの花言葉も『幸福』なんです。つまり、多くの人たちは、目の前にある『幸福』を見過し、ちょっとしかないチャンス『幸運』を探し求めているのです。人は辛いことや忙しさに遭遇すると余裕が無くなります。余裕が無くなると周りのものに目を向けられなくなります。すると、近くにある「幸せ」に気付かなくなっていきます。当たり前だと思っていることこそ、実は幸せなのです。そんなことは誰だって知っているはずなのに、すぐに忘れてしまいます。失ったり取り返しがつかなくなったりしてから気付いたりするのです。

私たちは、新型コロナウイルスの感染拡大から、改めて平凡な日常生活を過ごすことができることの幸せに気付かされたと思います。私たちの目の前には、たくさんの幸せがあって、私たちは幸せに包まれて生きているのではないのでしょうか。皆さんの目の前にある、学校生活における学習、友達との関わりに感謝を忘れず、新しい生活様式を実践しながら日々生活していきましょう。



フラワーアレンジメント教室に参加

5月8日の「母の日」に合わせて、津吉交流会館で「フラワーアレンジメント教室」が開催され、津吉小学校からも多くの子供が参加しました。講師の藤島先生には、学校でもクラブボランティアティーチャーとして、生け花の指導をいただいています。長崎新聞に活動の記事が掲載されましたので、御一読ください。

8日の「母の日」に合わせて「フラワーアレンジメント教室」が7日、平戸市津吉町の津吉交流会館

フラワーアレンジに挑戦



感謝伝えたい きょう母の日

カーネーションやカスミソウなどでフラワーアレンジメントに取り組む親子
＝平戸市、津吉交流会館

平戸で教室

へへの感謝の思いを込め、花を贈ってもらおうと同市南公民館と津吉地区まちづくり運営協議会が開いた。

同地区の生け花愛好者、藤島八重子さん(75)が花の挿し方、飾り付けの要領などを指導。参加者は吸水性スポンジを入れた器に、カーネーションやスターチス、カスミソウなどを使い、約1時間半で完成させた。

同市立津吉小2年の染川通さん(7)は「スポンジに花を挿すのが楽しかった。一緒に暮らしているおばあちゃんに贈りたい」と話した。(辻秀敏)

【5/8 付け 長崎新聞より】

職員紹介パート4

〇〇〇〇 先生 (本校3年目) 2年～6年書写担当

【〇〇町在住】

今年度は118名の明るく素直な津吉っ子と毎日楽しく過ごしています。全職員一丸となり、保護者の皆様、地域の方々のお力を借りながら、さらに素晴らしい学校となるよう全力を尽くします！

